


雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量 (mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報単語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内(木造住宅を想定)	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい		高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。 	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。 	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。 	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。 	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。 

特別警報について

◆特別警報の運用が開始されました!(平成25年8月30日～)

特別警報とは、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に、気象庁から発表されます。特別警報が発表されたら、非常事態であると認識し、ただちに**命を守る行動**をとってください。市町村からの避難勧告等に従いただちに避難所への避難や、外出が危険なときは家の中で少しでも安全な場所に移動してください。特別警報は自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



避難情報について



避難準備
高齢者等避難
開始

避難勧告

避難指示
(緊急)

- 災害発生の可能性が予想される状態です。
- お年寄りの方、体の不自由な方、小さいお子さんのいる方など、避難に時間のかかる方と、その避難を支援する方は避難を開始してください。
- それ以外の方については、気象情報に十分注意し、危険を感じたら早めに避難してください。
- 災害発生の危険性が高い状態です。
- 速やかに避難を開始してください。外が危険な場合は、屋内の高いところに避難してください。
- 災害発生の危険性が非常に高い状態、またはすでに被害が発生した状態です。
- 緊急に避難してください。外が危険な場合は、屋内の高いところに避難してください。